

## 有識者意見の概要及び意見に対する見解

1. 調査研究課題名 空き家発生・分布メカニズムの解明に関する調査研究（その2）	
2. 有識者意見の概要及び見解 有識者：浅見 泰司氏（東京大学大学院 工学系研究科 教授） 柴崎 亮介氏（東京大学空間情報科学研究センター 教授）	
意見の概要	意見に対する見解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・デシジョンツリー分析は、最初からカテゴリー化するのではなく、分析により閾値を決める方法もあるのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分析対象のデータに欠損値があることから、空き家確率の推計可能な建物数が大幅に減少するため、分析に適さないと考える。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家確率の計算方法については、カテゴリー毎のクロス集計にできないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自治体における実施を考えると、パターン数が膨大になり、実務的に適用が難しいため、係数を乗じる手法を採用した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家確率の算定式は、デシジョンツリー分析ではなくロジスティック回帰を用いることはできないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討過程において、ロジスティック回帰の適用も検討したが、建物全体に対して空き家の出現は確率が低い事象であり、統一的な算定式を出すことが困難であった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物に対するデータの紐付け成功率が7割とのことだが、残りの3割について欠落している情報を調べ、自治体にその部分の整備を促すことが重要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告書に今後の課題として記載した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3自治体の調査結果を基に手引書を作成した場合、他の自治体に適用した際に精度が落ちる可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告書及び手引書に、精度の確認の必要性について記載した。</li> </ul>